

平成 19 年 9 月 1 日発行
通巻 382 号
発行 (社) 日本オーディオ協会

Japan Audio Society JAS journal

2007
Vol. 47

No 8 & 9

- イベント・レポート
軽井沢オーディオサロン レポート
- 連載：テープ録音機物語
その 27 第二次大戦後の欧州 (4)
グルンディヒ と タンバーク
- メンバーズプラザ
自薦ソフト紹介 (音楽ソフト)
自薦ソフト紹介 (ビデオソフト)
- JAS インフォメーション
9 月度理事会・運営会議報告

阿部 美春

大林 國彦
大林 國彦



社団法人 日本オーディオ協会





(通巻 382 号)

2007 Vol.47 No.8/9 (8・9 月合併号)

発行人：鹿井 信雄

社団法人 日本オーディオ協会

〒101-0045 東京都中央区築地 2-8-9

電話：03-3546-1206 FAX：03-3546-1207

Internet URL

<http://www.jas-audio.or.jp>

C O N T E N T S

イベント・レポート

軽井沢オーディオサロン レポート

連載 「テープ録音機物語」

その 27 第二次大戦後の欧州 (4)

阿部 美春

グルンディヒ と タンバーク

メンバーズプラザ

自薦ソフト紹介 (音楽ソフト)

大林 國彦

自薦ソフト紹介 (ビデオソフト)

大林 國彦

JAS インフォメーション

9 月度理事会・運営会議報告

8・9 月合併号をお届けするにあたって

酷暑も一段落で、音に親しむ季節となってきました。

最近の協会活動の柱の一つとして、極力多くの人たちに、よい音を体感していただくための「視聴体験をすすめる活動」を進めています。

年一回の恒例行事である「A&V フェスタ」に止まることなく、年間を通して、また全国各地で視聴体験をしていただくために、協会も積極的に取組み、関連するイベント等の情報をホームページ上でご紹介させていただいております。

先日実施した「軽井沢オーディオサロン」も視聴体験の機会を増やすために企画したもので、関係各位のご尽力のもとに多くのお客様を迎え素晴らしい音楽を楽しむ会となりました。

イベントの様子は本号記事およびホームページにてご覧下さい。

(編集委員長)

☆☆☆ 編集委員会委員 ☆☆☆

(委員長) 藤本 正熙 (委員) 伊藤 博史 (株) D&M デノン・大林 國彦・蔭山 恵 (松下電器産業 (株))

北村 幸市 (社)日本レコード協会・豊島 政実 (四日市大学)・長谷川義謹 (パイオニア (株))

濱崎 公男 (日本放送協会)・森 芳久・山崎 芳男 (早稲田大学)

Event Report

軽井沢オーディオサロン レポート

軽井沢オーディオサロン

先月号でご案内しました新しいオーディオ・イベント「極上のリゾート、極上の音。軽井沢オーディオサロン」を開催しました。

「軽井沢オーディオサロン」は、軽井沢大賀ホールを中心に開催された「軽井沢八月祭」の一環として、音楽を愛する方々のために日本オーディオ協会が運営し8月21日（火）～24日（金）に実施したオーディオ・イベントです。

音楽に耳を傾けるには最適な閑静な佇まいの万平ホテルのホール「ザ・ハッピーヴァレイ」を会場にして、本イベントに足を運んでいただいた音楽・オーディオ愛好家の皆様と余暇を楽しむ家族連れの皆様をお迎えし極上の音を体感いただきました。

German Physiks、JBL、Revel Audio、SONY、VIVID Audio 等のスピーカーを中心にしたオーディオ機器による演奏会「Audio Salon」と、レコード制作に携わる伊藤 八十八さん、高田 英男さん、江崎 友淑さんをゲストにお迎えしてご自身の作品をもとにお話をうかがうトークセッション「Musical Afternoon / Evening」、ならびに今に 喜美子さん（ピアノ）はじめ軽井沢八月祭フェロシッププログラムに参加の演奏家による「ミニコンサート」という多彩なプログラムでナマと再生音を堪能していただきました。

サブルームでは各ブランドの小試聴ブースでコンパクトなオーディオシステムと、協会テーマコーナーでの球形スピーカーを試聴することができました。



会場「ザ・ハッピーヴァレイ」入口

「Audio Salon」

「Audio Salon」では会場前方に置かれたステラヴォックス ジャパン株式会社、ソニー株式会社、ハーマン インターナショナル株式会社提供の様々なオーディオコンポーネント（下表）の組合わせによるオーディオ演奏会が行われました。

ステラヴォックス ジャパン(株) 橋隅 和彦 取締役、ソニー(株) 杉浦 基之 オーディオ事業本部 シニアアコースティックマネージャー、ハーマン インターナショナル(株) 藤田 裕人 マーケティング部次長が選りすぐりのコンテンツを用意され、多彩なジャンルの音楽が演奏されました。

スピーカー	パワーアンプ	プリアンプ	CD・SA-CDプレーヤー	アナログプレーヤー
GERMAN PHYSIKS (HRS120) JBL (DD66000) REVEL AUDIO (ULTIMA SALON2) SONY (SS-AR1) VIVID Audio (K1)	GOLDMUND (TELOS 2500) HALCRO (dm88) Mark Levinson (No432L) VIOLA (BRAVO)	GOLDMUND (MIMESIS 22S) Mark Levinson (No32L) VIOLA (Cadenza)	GOLDMUND (EIDOS 36R) Mark Levinson (No390SL) SONY (SCD-DR1)	ROLF-KELCH (The Reference DD) SME (MODEL30MK1)

例えばハーマン インターナショナルの藤田さんは「再生音楽の楽しみは、自分の部屋に一流アーティストをお招きできること、過去の名演奏がくり返し聴けること、一味ちがった 50 年前の演奏も聴けること」とのコメントを交えて名盤を次々に再生していただきました。



会場前方のオーディオコンポーネント群



ソニー(株) 杉浦シニアアコースティックマネージャー



ハーマン インターナショナル(株) 藤田次長



演奏会場風景



ステラヴォックス ジャパン(株) 橋隅取締役

「Musical Afternoon / Evening」

22 日はレコード制作に携わる Eighty-Eight's の伊藤 八十八さん、23 日はビクターエンタテインメント・ビクタースタジオの高田 英男さん、24 日はオクタヴィア・レコードの江崎 友淑さんをゲストにお迎えして、昼の「Musical Afternoon」と夕方の「Musical Evening」にて音楽制作の体験談とご自身が手がけられた作品を聴かせていただきました。

伊藤 八十八さんのセッション

学生時代から JAZZ に傾倒。日本フォノグラム、イースト・ウィンド・レーベル、CBS/SONY を経て現在に至るまでのアルバム・プロデュース作品は、国内外を合わせ約 350 点。担当した作品は約 3,000 点を超えています。

ポール・モーリア、渡辺貞夫、マイルス・デイビス、笠井紀美子、久保田利伸、松田聖子と関わった

ジャンルは幅広く、また大学時代には JAZZ バンドで演奏されています。

軽井沢オーディオサロンでは、ジャズ専門レーベル Eighty-Eight's で手がけられている作品群をご披露いただきました。

最初の曲は若手ドラマー ジョー・ファンズワースの LP で、ジャケットにもこだわり、ドラムを中心にジャズの心を伝える Eighty-Eight's の制作姿勢を話されました。

ボーカル物やライブ作品など、LP、CD、SACD に止まらず、リミックスを終えたばかりの新曲も CD-R で聴かせていただきました。

Eighty-Eight's の作品はホームページをご覧ください。
<http://www.village-records.com/88/>



伊藤 八十八さん

高田 英男さんのセッション

麻丘 めぐみ、小泉 今日子、サリナジョーンズ、MALTA、PONTA・BOX、鬼太鼓座など歌謡曲から JAZZ、フュージョンまで幅広く録音制作、アコースティックや、サラウンドの録音も得意とし、ご自身はブラスバンドでのドラムの経験もされています。

録音スタジオにおけるセパレート収録初期の頃の如何にして自然な響きをつくるかに努力された体験談や、ホール録音における楽音のバランスの取り方、マスタリング過程での音質への気配りなど、作品例を再生しながら録音エンジニアのこまやかな感性に触れさせていただくお話でした。

「音をつくらない」ということで取組まれた最新録音や、和楽器の響きと迫力を求めて究極のアナログ録音に取組まれた鬼太鼓座の作品が印象的でした。



高田 英男さん

江崎 友淑さんのセッション

1999 年にオクタヴィア・レコード(株)を設立、300 タイトル以上の作品を制作されクラシック音楽を支えられています。ノイマン、アルブレヒト、アシュケナージ、朝比奈 隆、小林 研一郎氏をはじめとする指揮者や多くの演奏家の録音を手掛けられ、ご自身は幼少期よりピアノ演奏に親しまれています。



江崎 友淑さん

セッションはレコードアカデミー大賞を受賞されたマーツァル／チェコフィル／マーラー：交響曲第3番から始まり、チェコ・フィルハーモニーのルーツから、すでに十数年間も録音に取り組んでいる江崎さんのかかわりについて興味深いお話を伺いました。

最近力を入れられているズヴェーデン／オランダ放送フィルハーモニーではナマで聴くのに対する録音のバランスへの気配りを話され、ブルックナーの交響曲第4番を聴かせていただきました。

来月新譜のスーク、ドボルザークの作品も CD-R で再生していただきました。

オクタヴィア・レコードの作品はホームページをご覧ください。 <http://www.octavia.co.jp/>



会場風景

	21日(火)	22日(水)	23日(木)	24日(金)
11:00		Audio SALON	Audio SALON	Audio SALON
12:00		SONY SS-AR1	REVEL AUDIO ULTIMA SALON2	GERMAN PHYSIKS HRS 120
13:00		musical afternoon		
14:00		伊藤八十八 JBL DD66000	高田英男 VIVID Audio K1	江崎友淑 SONY SS-AR1
15:00		AudioSALON VIVID Audio K1	AudioSALON SONY SS-AR1	AudioSALON REVEL AUDIO ULTIMA SALON2
16:00		musical evening		
17:00	Audio SALON JBL DD66000 VIVID Audio K1 GERMAN PHYSIKS HRS 120	伊藤八十八 JBL DD66000	高田英男 SONY SS-AR1	江崎友淑 VIVID Audio K1
18:00	Audio SALON SONY SS-AR1	Audio SALON SONY SS-AR1	Audio SALON GERMAN PHYSIKS HRS 120	Audio SALON JBL DD66000
19:00				

プログラム表



「テープ録音機物語」

その 27 第二次大戦後の欧州 (4)

グルンディヒ と タンバーク

あべ よしはる
阿部 美春

今回もその 26 につづき、戦後 1950 年～1955 年の間に発売された欧州各社の録音機のうち、ドイツのグルンディヒとノルウエーのタンバークの黎明期を紹介する。いずれも欧州を代表するホーム用のテープ録音機に発展した。

初期のロゴマークである。



図 27-1 Grundig 初期のロゴマーク

3.7 Grundig (ドイツ) (197) (214) (215) (216) (219)

3.7.1 グルンディヒの誕生

グルンディヒ社 (Grundig GmbH) は 1945 年第二次大戦終結後直ぐにマックス・グルンディヒ (Max Grundig, 1908-1989) によってドイツのニュルンベルグ(Nürnberg)に設立された。当初、1947 年に工場が建設されるまで、ラジオ受信機のキットを生産し、1950 年には従業員 1000 人、50 万台の VHF ラジオ受信機が出荷されるようになった。そして 1952 年にはヨーロッパ最大のラジオメーカーとなる。また、この年にはテレビ受信機の生産も開始する。

創始者の M.グルンディヒは 1908 年にニュルンベルグで生まれ、電気技術者としての教育を受ける。

1930 年には同僚と一緒にラジオ受信機の小売を始め、1938 年には売上げが 100 万マルク (Reichsmark) に達している。そして第二次大戦後はラジオ受信機メーカーとして再出発する。

最初のテープ録音機は 1951 年、同じニュルンベルグにあったルモフォン(Lumophon)会社を傘下に入れ、1952 年に 1000 マルクを切るポータブル型のテープ録音機を発表する。以後、グルンディヒは毎年のようにテープ録音機の新製品を精力的に発表し、1955 年までの 4 年間に 5 機種が誕生している。1955 年頃までにグルンディヒが発売したテープ録音機を表 27-1 にまとめてみた。図 27-1 はグルンディヒ社

3.7.2 “Reporter” 500L & 700L (写真 27-1)

グルンディヒ最初のホーム用のテープ録音機で、録音・再生がテープ走行の左右両方向にできるデュアル・トラック形式である。

写真 27-1(a)は発表当時(1951 年)の広告である。



(a)



(b)

図 27-1 Grundig 700L 型

ヘッドは 1/4" テープ、ハーフトラックの消去と録音・再生兼用ヘッドを左右、上下対称に 2 組持ち、テープが右走行のときは上のトラックに、左走行のときは下のトラックに録音が行われる。

最大リールは 7 インチで、テープ速さは 500L 型が 7-1/2 インチ/秒の一速であるが、700L 型は 7-1/2 と 3-3/4 インチ/秒の 2 速である。

左右テープリールはキャプスタン・モーターからベルトを介して駆動されている (図 27-2)。

項 目	仕 様				
型 式	"Repeater" 500L & 700L	TK 9 "Reporter"	TK 5	TK 12	TK820 "Specialist"
年	1952	1954	1955	1955	1955
価 格	700L: DM 835.-	£69 (UK)	£55 (UK)	£68 (UK)	£102 (UK)
トラック形式	デュアル・トラック・モノ	デュアル・トラック・モノ	ハーフトラック・モノ	デュアル・トラック・モノ	デュアル・トラック・モノ
ヘッド	2	2	2	2	2
モーター	1	1	1	1	1
リール(最大)	7"	7"	5-3/4"	5-3/4"	7"
テープ速さ	500L: 7-1/2 in/s 700L: 7-1/2 & 3-3/4 in/s	3-3/4 in/s	3-3/4 in/s	7-1/2 & 3-3/4 in/s	7-1/2 & 3-3/4 in/s
周波数特性	50-6kHz @ 3-3/4 in/s 50-10kHz @ 7-1/2 in/s	±3dB, 40-9kHz	±3dB, 40-10k Hz	±3dB, 50-9kHz@3-3/4in/s	±3dB, 40-14kHz@7-1/2in/s ±3dB, 40- 8kHz@3-3/4 in/s
巻戻し速さ		約 1.5分	約 2分	約 1.5分	約 1.5分
真空管構成	EF40, ECC81, 2xEL42, EM34	EF804, ECC83, EL84, EM71	EF86, ECC81, 2xEL42, EM85		EF86, ECC81, EL84, EL43, EM71
入 力			mic; 500k, radio; 20k, diode; 1Mohms		3 inputs
出 力	2.5W	2.5W	2.5w	2.5w	
スピーカー	2x Permanent magnet	permanent magnet, elliptical	single permanent magnet, 5"	permanent magnet, elliptical	3 speakers built in
外形寸法	400x 320x 215 mm		305x 356x 203 mm		432x 445x 242 mm
重 量	15kg	12.7kg	10.7 kg	12.7kg	21kg

表 27-1 Grundig テープ録音機(1950年～1955年)の主な仕様

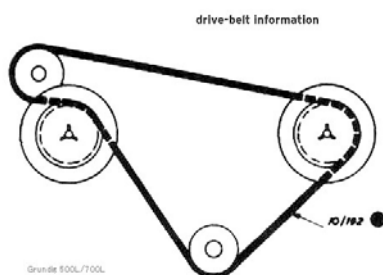


図 27-2 700L 型のベルト駆動

モーターは外側が回転子の分相簡形誘導電動機が使われている。

700L 型は他にコンソール・バージョン(700C 型)があり、L 型の 2 倍の出力で 10 インチ・スピーカーを駆動している。また、テープ録音機 700L 型、ラジオ受信機、フォノプレーヤー等と組合わせた卓上型 (写真 27-2 (a))、4010 型、DM1,300.-)やコンソール型 (b)、8010 型、DM2,140.-)もある。



写真 27-2 コンビネーション型再生装置

3.7.3 TK9 型 "Reporter" (写真 27-3).

グリンディヒとしては TK シリーズの第一弾として 1954 年に発売したホーム用のテープ録音機である。



写真 27-3 Grundig TK9 型

テープ速さは 3-3/4 インチ/秒の 1 速、テープリールは最大 7 インチ、トラック形式は 1/4"テープ、デュアル・トラックで、往復の録音再生ができる。テープの終端にアルミ箔をつけて、自動的にリバース録音または再生ができる。したがって、1200 フィートテープで往復 2 時間の連続録音ができることになる。

時計型のテープ・インディケーターがついていて、比較的正確なテープ位置をみることができる。

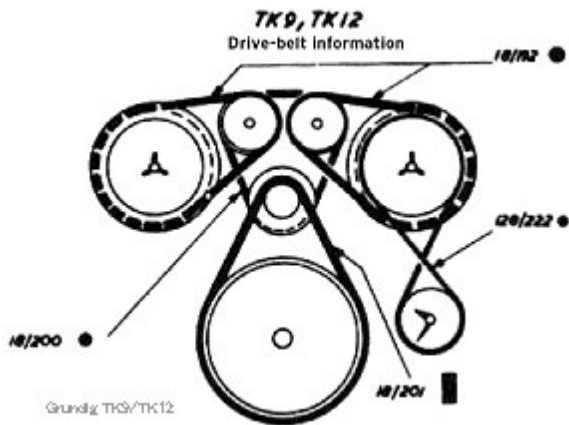


図 27-3 Grundig TK9 / TK12 のベルト駆動機構

図 27-3 にベルトによるドライブ機構を示す。

価格は英国で 69 ポンドであったから、当時としては結構低価格である。

3.7.4 TK5 型 (写真 27-4)

TK9 型の廉価版になる。発売は 1955 年で価格は 500 マルクを切った。英国では 55 ポンドである。

TK9 型に対して、テープリールは 5 インチ、テープ速さは 3-3/4 インチ/秒、トラック形式はハーフトラック・モノ、一方向録音・再生である。テープ終端にアルミ箔をつけると TK9 ではオートリバースになったが、TK5 の場合は自動停止となる。テープ・インディケータは 3 桁のカウンターになっている。図 27-4 にドライブ機構を、図 27-5 に回路図を示す。



写真 27-4 Grundig TK5 型

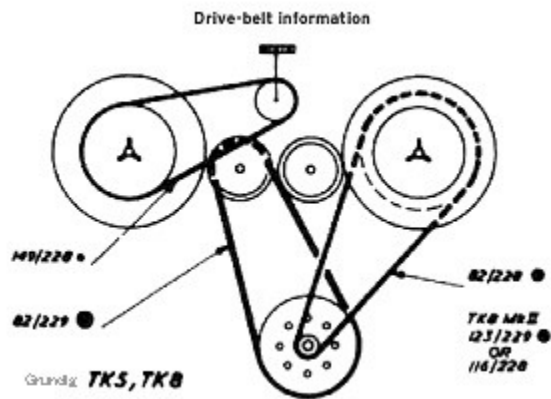


図 27-4 Grundig TK5 型のベルト駆動機構

3.7.5 TK12 型 "Reporter" (写真 27-5)

TK9 型と同様デュアル・トラック形式である。異なる点は最大テープリールが 7 インチに対して 5 インチ、テープ速さが 3-3/4 インチ/秒の 1 速に対して 7-1/2 と 3-3/4 インチ/秒の 2 速である。ドライブ機構は TK9 型と共通である (図 27-3)。テープ終端での反転時間は 3-3/4 インチ/秒で 1 秒以下、7-1/2 インチ/秒で約 3 秒である。価格は英国で 68 ポンドである。



写真 27-5 Grundig TK12 型

3.7.6 TK820 型 "Specialist" (写真 27-6)

TK9 型と TK12 型の機能を相備えた専門家向けのテープ録音機である。すなわち、最大テープリールは 7 インチ、テープ速さは 7-1/2 と 3-3/4 インチ/秒の 2 速、デュアル・トラック形式である。

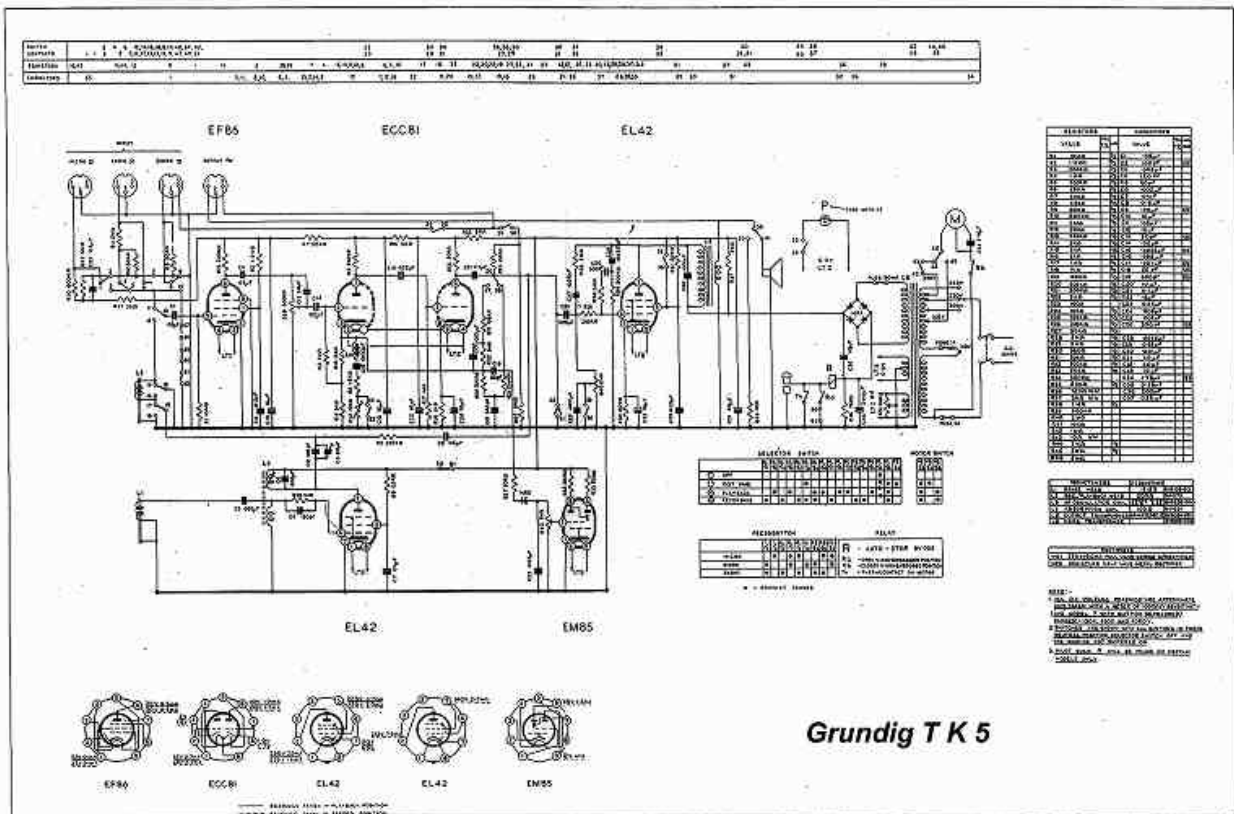


図 27-5 Grundig TK5 型 回路図



写真 27-6 Grundig TK820 型

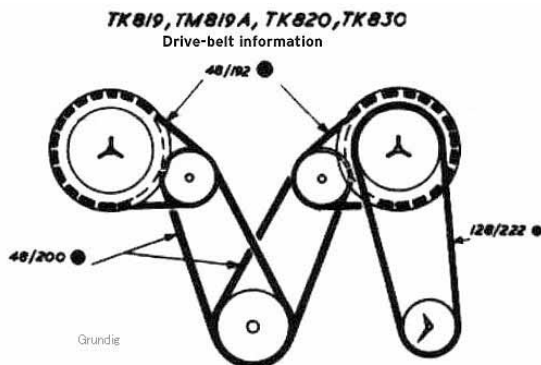


図 27-6 Grundig TK820 型ベルト駆動機構

図 27-6 に TK820 型のドライブ機構を示す。

時計型のテープ・インディケーター、3 入力切換え、スピーカーは 3 個内蔵、周波数帯域を 3 分割して広帯域再生を目指している。価格は英国で 102 ポンドである。

3.8 Tandberg (ノルウエー) (197) (217) (218)

3.8.1 タンバーク *1 の誕生

タンバーク社 (Tandbergs Radio fabrikk A/S) は 1933 年に パブヨン・タンドバーク (Vebjørn Tandberg, 1904-1978) によってノルウエーのオスロ市にタンバーク・ラジオ工場として設立された。

創立者の V. タンドバークは 1904 年にノルウエー北部の小さな町 (Bodo) で生まれ、1930 年に Trondheim 大学の電気工学科を卒業し、2 年後に会社を起している。

ラジオで成功したタンバーク社は 1951 年に新工場を建て、翌 1952 年からホーム用テープ録音機の

生産を開始した。1型(1952-54)に始まり、2型(1954-57)そして3型(1958-1962)に、その後も引き続き、時代に即応しながら新製品への切り替えがまめに行われていた。

1956年から米国向け輸出を開始し、1956年までの生産は国内向けを含み、40,000台に達している。米国での成功は性能の良さとともに価格がリーズナブルであったからである。

図27-7はタンバーク社初期のロゴマークである。



図27-7 Tandberg 社初期のロゴマーク

(注*1) 英語読み「タンバーク」が一般に広く使われているので、ブランドはあえて英語のカナ読みとした。

3.8.2 タンバークのテープ録音機 (1型と2型)

表27-2に1型と2型の主な仕様を示す。

1型(写真27-7)はタンバーク最初のテープ録音機で1952年から1954年まで生産された。3種類のバージョンが用意された。すなわち、内臓スピーカーの有無、テープ速さの選択(7-1/2 または 3-3/4 インチ/秒)、そしてスピーカーグリルの材質(木製またはプラスチック)である。

タンバークの特徴はテープモードの切り替えがジョイスティックであるが、これは2型以降の機械で、1型は回転式のノップであった。



写真27-7 Tandberg Model 1

項目	仕様	
型式	Tandberg Model 1 & 1H	Tandberg Model 2, 2T, 2F & 2 HiFi
年	1952-1954	1954-1957
価格(USA)		model 2: \$249.50 model 2F: \$279.50 (model 3Hi-Fi: \$349.50)
トラック形式	ハーフトラック・モノ	ハーフトラック・モノ
ヘッド	2	2
モーター	1	1
リール(最大)	7"	7"
テープ速さ	7-1/2 & 3-3/4 in/s 初期のモデルはいずれか1速	3-3/4 & 1-7/8 in/s
周波数特性		±3dB, 40-8k Hz @3-3/4 in/s ±3dB, 50-4k Hz @1-7/8 in/s ≤0.2% @ 3-3/4 in/s, ≤0.3% @1-7/8 in/s
ワウ・フラッター		≥50dB @ 3-3/4 in/s
SN比	≥50dB	
真空管構成		EF804, ECC83, EL84, EM71
出力	1.5 W	3W
スピーカー	小型モニタースピーカー(model 1 only)	1 (7" x 4")
外形寸法		381x 298x 171 mm
重量	5.4 kg	9.4 kg

表27-2 Tandberg 1型、2型の主な仕様

ヘッドは録音、再生兼用の2ヘッド、ワン・モーター式、7インチリールで典型的なホーム用テープ録音機である。テープ速さは7-1/2 または 3-3/4 インチ/秒の単速であったが、後に2速に変更された。



Tandberg model 2

写真 27-8 Tandberg Model 2

2型(写真27-8)は1954年から1957年に作られたモデルで4種類のバージョンがある。標準の2型、テープカウンターを持った2T型、フットペダル・リモコンを持った2F型、そしてHiFi用に設計され、さらに3速(7-1/2, 3-3/4, 1-7/8 in/s)を備えた、2型HiFiである。

フットコントロールはスタートと巻戻し2個のペダルを持っている。
(次号につづく)

【参考文献】(前回よりつづく)

(214) “Grundig” Wikipedia, the free encyclopedia

(215) “Grundig, Radio Boy, History of Grundig”

<http://www.geocities.com/grundigraduiboys/>

(216) “Max Grundig” Wikipedia

(217) “Tandberg Radio brief history”

file://E://site/articles/tandberg/tandberg.htm

(218) “1956-1957 Tape Recorder Directory”

Audio Device, Inc.(1957.10)

(219) “Grundig Tonbandgeräte Type 700L” (1951)

(お詫びと誤り訂正)

本物語その25(JAS Journal 2007年5・6月号)の7頁、右段、表25-3の下、本文3行目、ルツェルン(Lucerne)のカッコ内は(Luzern)の誤りでした。ここに謹んでお詫びし、訂正いたします。

MEMBERS PLAZA



音楽ソフト

オットリーノ・レスピーギ

(1879-1936)

交響詩「ローマの噴水」「ローマの松」

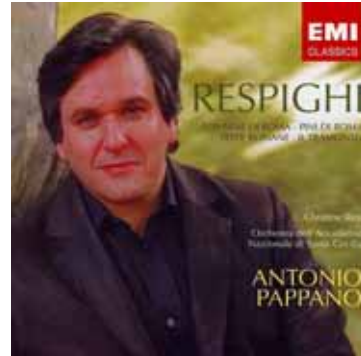
夕暮れ・交響詩「ローマの祭り」

アントニオ・パッパノ (指揮)

ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団

EMI JAPAN

TOCE-55996/7



作者の意図した音を実現したローマ三部作

2005 年以来、ローマ・サンタ・チェチーリア国立アカデミー管弦楽団の音楽監督に迎えられているアントニオ・パッパノが指揮して、レスピーギの「ローマ三部作」がリリースされた。

通称、ローマ三部作と言われる交響詩「ローマの噴水」「ローマの松」及び「ローマの祭り」の 3 曲は、色彩感に溢れる管弦楽で人気が高く、特に、オーディオ的にも壮麗で強靱なオーケストレーションから精緻な「音」も潜んでいるところに高い人気がある作品となっており、今回のパッパノが演奏する「ローマ三部作」は高い音楽的感性に裏付けされ、高音質の録音と相俟ってオーディオ・ファイルの試聴用音源として常設すべき CD であると考えられる。

人気の高い名曲ではあるが、一般的な切れ目のない交響詩と異なり、幾つかの曲の集合体、即ち、オムニパスの作品であって、創られた時代背景を考察すると、一層、作品の理解が深まるように思われる。その例として作曲した時期の「ローマの松」の 1924 年、「ローマの祭り」の 1928 年（ローマの噴水は 1916 年）はムッソリーニによるファシズムの時代、この政治的背景と直結させるのは大変危険であるが、「ローマの松」第 4 曲（アッピア街道の松）と「ローマの祭り」第 1 曲（チルチェンセス）に作者は「ブッキーナ」と呼ぶ古代ローマを象徴する楽器が指定されている。この楽器は古代ローマ帝国時

代、競技や戦いの場で兵士を鼓舞させる目的に吹き鳴らした金管楽器で、普通このパートはトランペットとトロンボーンで演奏されることが多いが、パッパノは指定通り忠実にこれを再現させ、その音を聴かせてくれている。（ブックレットの解説から）

「ローマの祭り」の第 1 曲の「チルチェンセス」とは、古代ローマ時代、円形劇場でのキリスト教の殉教者と野獣を戦わせる残酷な公開処刑を言い、レスピーギは恐ろしいまで克明に描き、戦いの開始を「ブッキーナ」の吹奏で示唆しているのである。その他、この作品は時代背景が滲み出た情景を、色彩感とドラマ性で表現させることに傾注した作風で、レスピーギが楽器や奏法などによる「音」を精緻なまでに指定している。特に、この種の演奏では、オーケストラの持つ力量から自走する懸念もあるが、パッパノの指示する音を越えることなく、忠実に演奏していることに強く印象付けられる。

2007 年 1 月のローマで、ライブ及びセッションでの収録とあるが、曲ごとに特定されておらず、全体の音質にその差異は認められない素晴らしい録音である。オーケストラのフォルテッシモでも完全に分解した音の再現が印象的で、フォーカスもしっかりして作品に相応しい精彩な音を提供してくれており、音楽的センスが録音に活かされた典型的な高音質な音が体験できる。

大林國彦（会員番号 0799）

MEMBERS PLAZA



「ドリームガールズ」

監督：ビル・コンドン

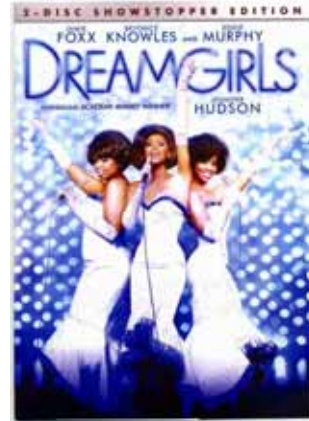
キャスト：ジェイミー・フォックス/

ビヨンセ・ノウルズ/

エディ・マーフィ/ジェニファー・ハドソン

Paramount

PPF-113319



音量を上げたくなるモータウン音楽の映画

ブロードウェイのヒットミュージカルを絢爛なる豪華キャストとスタッフで映画化した「ドリームガールズ」がDVDで発売になった。

1960年代、ダイアナ・ロスが所属していた女性トリオ「シュプリームス」の実話をモチーフにした華やかなショービジネスのサクセスストーリーを数々の名曲を絡めながら、エンターテインメントの裏面での確執や裏切り、挫折など様々な人間模様を併せ描きながら、黒人女性コーラス・トリオを売り出すための複雑な社会面を全面に滲ませた、アカデミー受賞作品「シカゴ」の脚本担当のビル・コンドンが監督をした作品である。

1962年、音楽での成功を夢見るエフィ（ジェニファー・ハドソン）、ローレン及び、ディーナ（ビヨンセ・ノウルズ）の3人は「ドリーメッツ」を結成し、新人オーディションへの挑戦を繰り返していた。そんな彼女達の可能性を見出したのが、中古車販売業を営むカーティス（ジェイミー・フォックス）である。マネージメントを買って出た彼は、地元の人気歌手ジェームズ・アーリー（エディ・マーフィ）のバックコーラスに抜擢し、彼らのパワフルなステージが全米の注目を集めるようになった。

やがて「ザ・ドリームス」に改名したディーナ達はスター街道を邁進するのであったが、そこに至るまでに様々な事件が介在していたのである。

恋の芽生えと苦難、ディーナにリードボーカルの座

を代えられたエフィの困惑と「ザ・ドリームス」からの離脱、業界から追放され苦境にあったエフィの新曲が横取りされる等々、手段を選ばないショービジネスの世界を数々の名曲にのせて描くサクセスドラマの展開に感動させられる。

当時の音楽のリズムに合わせて、色彩感や使用楽器類に至るまで時代背景に合致させたアナログ的で懐かしいアメリカを表現する映像は、着想と実行が大きな成果に結び付いたことを実感できる。「ドリーメッツ」時代のメーキャップや衣装が「ザ・ドリームス」となり絢爛豪華な衣装への変化も確認することができるし、素晴らしい舞台照明が鮮やかさを演出して映像に迫力さえ感じさせている。

特に豪華なキャストを揃えていることも珍しい。歌姫ビヨンセ・ノウルズが華麗な歌を多く聴かせるし、エフィ役の新人ジェニファー・ハドソンの歌唱力と演技力が観られただけでも、この映画の価値観があると思うほど存在感を示しており、敏腕プロデューサーのカーティス役適任のジェイミー・フォックスも加わり、彼らが一体となって造ったことがこの映画の特長になっていると思われる。

60年代から70年代の懐かしいモータウン・サウンドが現代技術で録音処理された高音質の音楽が終始楽しめるのも最大の特長でもとも言えよう。

大林國彦（会員番号 0799）

JAS Information

9 月度理事会・第 71 回運営会議報告

平成 19 年 9 月 5 日に 9 月度理事会・第 71 回運営会議が理事 26 名の出席（代理出席・委任状提出理事を含む）のもと日本オーディオ協会会議室で開催されました。

9 月度理事会議事

（第 1 号議案） 新会員の承認を求める件

6 月 7 日の前回理事会以降、9 月 4 日現在までの間に申込みのあった個人正会員 4 名と法人賛助会員 1 社の入会が承認されました。

法人賛助会員：加賀コンポーネント株式会社

代表取締役社長：高師 幸男

住所：東京都文京区本郷 2-2-9 センチュリータワー

事業：各種電源機器、AV アクセサリー他

URL：<http://www.kgcompo.co.jp/>

第 71 回運営会議議事

平成 19 年度事業の中間報告

平成 19 年度も間もなく半ばにさしかかる時点で、事務局より事業活動の中間報告ならびに年度後半に向けての主要活動と課題等が報告され、意見交換が行われました。

協会活動の現状と課題

1. ユーザーへのアプローチ活動として次のテーマを重点的に進めています。

- （1）新装 A&V フェスタ 2008 の開催準備を進めています。
- （2）普及推進部会のワーキンググループ活動として、視聴体験をすすめる活動・サラウンド・サウンドの啓蒙活動・青少年向けの啓蒙活動に重点的に取り組んでいます。（別項に記載）

これからは、ユーザーが違いを体感できる比較試聴会の提供や、生活シーンに役立つ情報提供に一層の工夫をすることが求められています。

2. 会員サービスの変革を進めています。

- （1）会報のネット配信は個人賛助会員まで含めて配信先が増加中です。
- （2）協会の日常の動きを伝え会員とのコミュニケーションを密にするため、7 月末に「築地便り」を創刊し正会員、法人会員関係者の皆様への配信を始めました。今後も月 2 回配信しますので内容についての御意見をお寄せ下さい。
- （3）JAS コンファレンス開催内容の見直しを進めています。技術者のみならず幅の広い関係者の皆様に役立つ JAS シンポジウムに衣替えして年内開催の準備を進めます。
- （4）協会が頒布中の音源の種類が廃盤等で減少しています。ソフト委員会にて内容充実の検討を進めます。

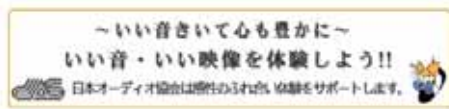
3. 法人制度改革への対応を始めます。間もなく社団法人の公益認定等に係る政令・内閣府令が公布され、当協会も対応の検討が必要です。法人としての今後のありかたや協会ミッションの再確認と法人会員・個人会員の意見集約への取組みを始めます。

普及推進部会の活動報告

1. 体験機会拡大のための新たな取組みとして、視聴エリアの拡充を目指した A&V フェスタ 2008 の推進、地方展開を意図した軽井沢オーディオサロンの実施、感性のふれあう体験ができる会員社イベントの応援（実施例：PIONEER PREMIERE FESTA '07 の後援）を行っています。



軽井沢オーディオサロン



イベント応援ロゴ

2. 7月に視聴体験ワーキンググループを編成し、音の日を中心にした「ショールームへ行こう」運動の実施について検討を始めました。参加施設の拡充・期間の拡大・事前広報での周知等を検討中です。

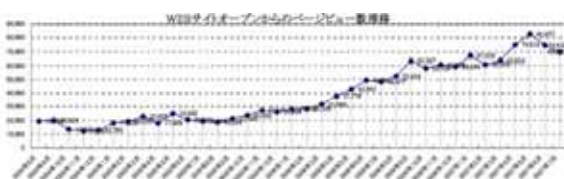
3. 放送デジタル化を機にサラウンド方式の啓蒙活動としてサラウンドの専門サイト“サラウンドWeb”での情報発信を継続しています。

URL <http://www.jas-audio.or.jp/m/index.php>

ここでは、サラウンド音源制作の動向と、家庭での再生方法の啓蒙に力を入れています。



“サラウンドWeb”のトップページ



“サラウンドWeb”アクセス数の月次経緯

4. 4月にサラウンド・サウンドワーキンググループを編成し活発な作業を進めています。現在、一般人のサラウンドに関する認知度等を調査し普及課題を抽出し対策を講じるための作業を行っています。間もなく結果をまとめ、JEITA等と連携して普及のためのアクションを開始します。また、普及推進のために業界が連携した「サラウンドの日」の制定や、A&V フェスタ2008におけるテーマゾーン運営など各種イベントの実施についても検討中です。

5. 青少年向けの啓蒙活動として、オーディオの科学知識と工作体験を広めるため、A&V フェスタ定番の工作教室、各地のNPO活動と連携した啓蒙活動を下表右側各社のご協力のもとに実施中です。

1月13日	新宿レガスチャレンジ教室	ソニー浜松テック
3月24日	新宿レガスチャレンジ教室	パイオニア・早大
8月19日	「科学の祭典」神奈川大会	パイオニア
9月9日	「科学の祭典」東京大会	パイオニア
冬休期間	未定	
2月22日～	A&V フェスタ2008	フォステックス・他



子供のための教室 実施例

本年度の「音の日」行事案

本年度は協会創立55周年にあたり、12月6日(木)「音の日」に虎ノ門パストラルにて記念行事を行うことを計画しています。

55周年記念功労者顕彰と記念JASシンポジウム、ならびに音の日恒例の「音の匠」の顕彰、日本オーディオ協会・日本音楽スタジオ協会・ミキサー協会・日本レコード協会・演奏家権利処理合同機構が共催する第14回日本プロ音楽録音賞授賞式、55周年記念パーティをかねた「音の日のつどい」などの企画を拡大音の日委員会(森委員長)にて進めます。